

(別紙様式3)

令和4年3月31日

事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	東京都新宿区西新宿2-8-1
管理機関名	東京都教育委員会
代表者名	教育長 藤田 裕司

令和3年度WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

記

- 1 事業の実施期間
令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日
- 2 事業拠点校名
学校名 東京都立南多摩中等教育学校
学校長名 永森 比人美
- 3 構想名
Diverse Link Tokyo Edu～社会・世界と協働した高度で創造的な探究
- 4 構想の概要
東京都教育委員会（以下「都教委」という。）が中心となって海外の教育行政機関や国内外の大学・企業等をALネットワークに取り込み、各機関の協力を得ながら、社会・世界と協働した高度かつ創造的な文理融合・探究学習を開発し、生徒に提供する「Diverse Link Tokyo Edu」事業を展開する。取組には、独自の探究カリキュラム・授業の展開や最先端の取組等、国際的に活躍するトップリーダーから多角的な考え方を学ぶ特別講座の開催、生徒と留学生とが多様性の中で協働して学ぶ高校生国際会議等の開催等を含む。各校での教育課程内での取組と、学校の枠を超えた取組との両面を含み、既存の教育手法にはない包括的なアプローチである。開発したメソッドは、ホームページ等を通じて国内外に広く発信・提供し、国の教育改革において、東京が新しい時代を切り拓く人材育成におけるリーディング的役割を担うことを目指す。
- 5 教育課程の特例の活用の有無
教育課程の特例の活用有

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（令和3（2021）年4月1日～令和4（2022）年3月31日）											
a. 取組体制の整備状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①Tokyo Leading Academy			○	○		○		○				
②高校生研究員プロジェクト												▶
b. 情報共有体制	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
c. 管理機関の長、拠点校等の長の役割	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
d. 運営指導委員会・検証委員会	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①DLTE 運営指導委員会			○						○			
②DLTE 検証委員会			○						○			
e. 卒業生の成長の把握	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
f. 留学生支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶

業務項目	実施期間（令和3（2021）年4月1日～令和4（2022）年3月31日）											
a. 管理機関の自己負担	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
b. 管理機関による支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
c. 事業継続に向けた計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶

業務項目	実施期間（令和3（2021）年4月1日～令和4（2022）年3月31日）											
a. ALネットワーク運営組織の実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協力機関バンクの運営												▶
b. 関係機関による新たな協働事業の開発	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
c. ALネットワークによる進学支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
d. 事務局の設置	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
e. 国内外の大学等と連携した国際会議等の準備状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶
f. 事業成果の普及	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ポータルでの情報発信												▶
グローバル論文レポジトリの運営												▶
オンデマンド動画配信												▶
g. ALネットワーク運営のための情報収集・提供	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
オンデマンド教材の配信												▶
h. ALネットワークの基盤となる協定文書	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												▶

(2) 実績の説明

【実施体制の整備】

a. 取組体制の整備状況

事業の推進に当たり、管理機関の下、国内外の多様な機関との連携を進めている。学校の取組を充実させるため、海外の教育行政機関と「教育に関する覚書」を締結（令和4年3月現在、10か国・地域と締結）している他、本事業に関して特化した連携協定を、4大学（クイーンズランド工科大学、オークランド工科大学、東京大学先端科学技術研究センター、東京外国語大学）と締結している。

これらの協定に基づき、最先端の研究や企業の取組等を英語で学び、議論する特別講座 Tokyo Leading Academy 及び高校生研究員プロジェクトを実施した。

①Tokyo Leading Academy 実施内容

東京大学先端科学技術研究センターの研究者等を講師に迎え、5回連続の特別講座を開催した。都立校生 21 名が参加した。

※第1回・第2回はオンデマンドで動画を配信

開催日	第1部	第2部	講師
第1回 (オンデマンド配信)	先端研が考える 今後のテクノロジーの行方 ～アートとサイエンスの融合～		神崎 亮平 教授(所長) 吉本 英樹 特任准教授
第2回 (オンデマンド配信)	ヒトやモノの流れと データサイエンス		吉村 有司 特任准教授 フェリチャーニ クラウディオ 特任准教授
第3回 7月11日(日)	インクルーシブデザインと テクノロジー	グループ ディスカッション・ 発表	稲見 昌彦 教授 並木 重宏 准教授
第4回 9月26日(日)	テクノロジーが支える健康		西増 弘志 教授 太田 禎生 准教授 大澤 毅 特任准教授
第4回終了後に英語でのレポート作成			
第5回 11月21日(日)	新エネルギーと経済	成果発表会 (優秀レポートの 発表と講評)	杉山 正和 教授 松本 真由美 客員准教授

②高校生研究員プロジェクト

東京大学先端科学技術研究センターの教員等が、都立校生 12 名の課題研究に対し3回程度の個別指導をした。

b. 情報共有体制

管理機関と拠点校及び共同実施校とで、随時打合せを行いながら事業に取り組んだ。学校の取組事例等について、運営指導委員会や検証委員会で情報共有を図った。

c. 管理機関の長、拠点校等の長の役割

管理機関の長が果たした役割は、コロナ禍においても教育活動を継続し、本事業を東京都のグローバル人材育成施策の目玉事業の一つに位置付けたことである。

拠点校等の長が果たした役割は、前年度構築した校内体制の下、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、事業を着実に推進したことである。

d. 運営指導委員会・検証委員会

下記のとおり運営指導委員会及び検証委員会を実施した。

【第一回運営指導委員会及び検証委員会】

開催日：令和3年6月22日（火）

協議内容：

（運営指導委員会）

- ・管理機関、拠点校、共同実施校の取組内容について
- ・協力機関バンクについて
- ・事業のまとめについて

（検証委員会）

- ・事業の検証方法について

【第二回運営指導委員会及び検証委員会】

開催日：令和3年12月20日（月）

協議内容：

（運営指導委員会）

- ・管理機関、拠点校、共同実施校の令和3年度取組内容及び令和4年度実施計画について

（検証委員会）

- ・事業の検証結果について

e. 卒業生の成長の把握

事業の効果検証項目として捕捉するものは別紙のとおり

f. 留学生支援

例年、日本型教育の体験や日本文化、東京の暮らし等に触れることができる外国人留学生の受入事業「東京体験スクール」を計画している。6（2）【実施体制の整備】aに記載した協力関係に基づき、8つの国や地域（カナダ（ブリティッシュ・コロンビア州）、オーストラリア（ニューサウスウェルズ州、クイーンズランド州）、ニュージーランド、タイ、台湾（台北市、高雄市）、ベトナム（ハノイ市））から生徒が来日し、都立高校にて、在校生の家庭がホストファミリーとなり、受け入れを行っている。受け入れに当たっては、管理機関が全体のマネジメントやホストファミリーとのマッチング等を行っていたが、令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。令和4年度は来日を予定する国・地域と密に協議をし、感染症対策を講じた上で実施予定である。

【財政等支援】

a. 管理機関の自己負担

管理機関の経費により Tokyo Leading Academy 及び高校生研究員プロジェクトを実施した。

また、DXに対応した英語教育を推進するため、管理機関の経費により、動画教材やオンラインイベントの情報を提供するウェブサイト TOKYO ENGLISH CHANNEL を開設した。動画教材やオンラインイベントの企画・運営に当たっては、6（2）【実施体制の整備】aに記載した協力関係を活用している。

<https://www.tec.metro.tokyo.lg.jp/>

b. 管理機関による支援

管理機関は令和3年6月9日（水）、ベトナム・ハノイ市と「教育に関する覚書」を締結した。

ハノイ市内の学校と事業拠点校の間で本覚書に基づくオンライン交流を実施した際、管理

機関はハノイ市教育訓練局との連絡調整を行い、事業実施を支援した。

- c. 事業継続に向けた計画
 管理機関は、生徒が課題研究の成果をまとめ、外部機関からコメントを受けた論文を集約し、ウェブサイト上で公開する「グローバル論文レポジトリ」を構築し、運営している。また、本事業に協力いただける外部機関を募集し、運営指導委員の審査を経て登録する制度である「協力機関バンク」を構築し、運営している。令和3年度は3機関を登録した。令和4年度には、事業成果等についてまとめた成果報告書等を作成する予定である。

【ALネットワークの形成】

- a. ALネットワーク運営組織の実績
 国内外の大学との連携についてはすでに進んでいるが、さらに多様な協力機関との連携を進めていくため、協力機関バンクを令和2年度に構築した。令和3年度は3機関が登録している。 <http://tokyo-portal-edu.com/bank.html>
- b. 関係機関による新たな協働事業の開発
 ALネットワークのさらなる拡大に向け、ベトナム・ハノイ市教育訓練局との協議を進め、事業拠点校においてオンライン交流を実施した。
- c. ALネットワークによる進学支援
 生徒の進路選択の一助となるよう、(2)【財政等支援】a及びbに記載の TOKYO ENGLISH CHANNEL で国内外の大学と連携して動画教材を開発した。
 また、事業連携校を対象とした「東京グローバル 10」事業において、海外大学進学支援講座を開催した。
- d. 事務局の設置
 ALネットワークを円滑かつ効果的に運営するため、以下の体制で事務局を運営した。

<管理機関体制（事務局）>

職名等	役割分担
指導部国際教育事業担当課長	本事業の運営責任者、ALネットワークの統括
指導部主任指導主事（国際教育担当）	カリキュラム・アドバイザー 関係機関との連絡調整
指導部主任指導主事（定時制・通信制教育担当）	探究活動を中心とした教育内容等に関する調整 カリキュラム・アドバイザー補助
指導部高等学校教育指導課統括指導主事	教育内容等に関する調整
指導部指導企画課統括指導主事	学校との連絡調整、資料作成等
指導部指導企画課課長代理	経理事務、資料作成・整理等
指導部指導企画課主事	
指導部指導企画課国際交流員（JET-CIR）	海外交流アドバイザー

※いずれも他事業との兼務。

- e. 国内外の大学等と連携した国際会議等の準備状況
 令和4年度は、国内外の大学などと連携して下記事業を実施する予定である。
- ①高校生研究員プロジェクト
- ・大学等と連携して実施
 - ・都立学校の生徒20名程度を対象
 - ・生徒の課題研究に大学教員等が助言
 - ・リモート指導、研究室のインターンシップ等も実施

②グローバル論文レポジトリの運営

- ・生徒が課題研究の成果をまとめ、外部機関からコメントを受けた論文を集約し、ウェブサイト上で公開

<https://www.tokyo-portal-edu.metro.tokyo.lg.jp/repository/>

③TOKYO ENGLISH CHANNEL、TokyoGlobalStudio

- ・6（2）【実施体制の整備】aに記載した協力関係を活用して、動画教材やオンラインイベントの情報を提供するウェブサイトを経営
- ・都内と海外の生徒が国内外の大学の講座を受け、様々なテーマについて議論するオンラインイベントを実施

<https://www.tec.metro.tokyo.lg.jp/>

<https://www.tgs.metro.tokyo.lg.jp/>

f. 事業成果の普及

都教委のグローバル人材育成に関するポータルサイト「東京ポータル」において情報を発信している。

<http://tokyo-portal-edu.com/index.html>

また、グローバル論文レポジトリを稼働し、生徒の優秀な論文をオンライン上で共有している。

さらに、令和3年度から TOKYO ENGLISH CHANNEL において、英語動画教材をオンライン上で提供している。

令和4年度は管理機関の取りまとめにより最終報告書を作成し、成果を発表する最終報告会を開催して、事業成果を広く発信し、日本国内外の高等学校等に還元する。

g. ALネットワーク運営のための情報収集・提供

本事業に協力いただける外部機関を募集し、運営指導委員の審査を経て登録する制度である「協力機関バンク」を令和2年度に発足し、令和3年度には3機関が登録している。

h. ALネットワークの基盤となる協定文書

管理機関は下記の機関と覚書や協定を締結している。

- ・令和元年（2019年）6月25日、クイーンズランド州政府貿易・投資庁
- ・令和元年（2019年）6月27日、クイーンズランド工科大学
- ・令和元年（2019年）8月9日、ニュージーランド オークランド工科大学
- ・令和元年（2019年）9月27日、東京大学先端科学技術研究センター
- ・令和元年（2019年）10月18日、東京外国語大学

その他、（2）【財政等支援】cに記載の協力機関バンクを発足した。

7-1 研究開発の実績（東京都立南多摩中等教育学校）

（1）実施日程

業務項目	実施期間（令和3（2021）年4月1日～令和4（2022）年3月31日）											
a. テーマ型学習	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
SDGs チーム及びグローバル問題研究会等の活動												→
b. 国内外の大学及び企業等との協働	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①国内外の大学との連携												→

②グローバル企業・NPO 等との連携(エルメス財団・大林組)				○					○				
c. 外国語や文理両方の教科を融合した取組	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
STEAM 教育講座				○				○	○				
「社会 × データ分析」講演会										○			
d. 海外研修および海外の学校との連携	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ベトナム・ハノイ チューヴァンアン高校				○					○				
PASSO プロジェクト							○	○	○	○			
e. 文理融合教育	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
文理融合科目等の記録映像作成							○	○					
f. 目的達成に資する工夫	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
地域との協働			○	○					○		○		
国際理解教育の推進						○							
協力関係バンクの活用							○						
h. 高度な学習のための環境整備	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
① 高校生 SR サミット FOCUS 2021				○	○								
②全国高校生フォーラム									○				
j. 学校独自の取組	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
探究独自テキスト作成・活用												→	
八王子・探究コンソーシアム											○		

(2) 実績の説明

a. テーマ型学習

SDGs チーム及びグローバル問題研究会等の活動

- ・SDGs 課題に生徒が取り組む
例) 昆虫食プロジェクト
- ・様々な社会的な課題に生徒が取り組む
例) ●牛乳パック問題

学校給食飲用牛乳パックのデザインコンテスト表彰式

東京都教育委員会主催「学校給食飲用牛乳パックデザインコンテスト」(プラスチックストローを使用せずに飲むことができる牛乳パックのデザインを募集するもの)で、本校から応募した1名が最優秀賞、2名が優秀賞を獲得した。本校では2年

前から、本校のグローバル問題研究会のメンバーを中心に、海洋プラスチック削減の一環として給食においてストローを使用しない取組を進めてきた。プラスチックストローを使用しない牛乳パックのデザインについても、グローバル問題研究会を中心にデザインを考案した。

●八王子未来プロジェクト

八王子市立第四小学校への学習支援

令和3年2月11日に実施された「高校生によるまちづくり提案発表会」において、生徒が提言した小学生への学習支援が採用され、事業が始まった。八王子や八王子市立第四小学校の学校運営協議会と連携して実施した。

●イオンモールでSDGsのポスターを展示

JR中央線 豊田駅北口にある「イオンモール多摩平の森」で日野市主催の「日野SDGs展 ～こんな身近にあるんだ！ みんなのSDGs～」にて、本校のSDGsに関する取組（オーガニックコットンの栽培、文化祭における国産小麦を使ったパンや昆虫食スナックの販売、広報など）をポスターで発表した。

・多摩地域の自然環境を生かす活動

例) 有機綿花栽培プロジェクト、檜原村フジの森プロジェクト、高尾山ワークショップ

b. 国内外の大学及び企業等との協働

①大学との連携

・東京都立大学：5年LWP論文指導

・東京都立大学：第2回探究学習合同発表会

東京都立大学アドミッションセンター高大連携室主催（本校ほか4校共催）。本校からは5年生の生徒4名がオンラインで参加し、「里親委託を進展させるためには」「階段島」シリーズにおける2つの人格を区別する要因—形容詞の頻度に着目して—」「近現代の鉄道整備が国力に与えた影響」「サステナブルなヒット商品をつくる」というタイトルで発表した。仮説検定など統計解析も実践した研究発表であった。発表後には、東京都立大学の先生方から質問やアドバイスを受け、今後、さらに探究を深めていく上での参考になった。3～5年生、12名も聴衆として参加した。

・東京農工大学：GIYSEプログラム

・東京大学：GSCプログラム

・京都大学：ELCASプログラム

・電気通信大学：UECスクール

・東京大学先端科学技術研究センター講演会

東京大学先端科学技術研究センターの小泉秀樹教授による講演会を実施した。「都市工学持続可能な都市の未来を考えよう」というテーマで、研究者の視点からまちづくりに関わる研究を学ぶとともに、都市そのものの作り方を考えるためには、都市工学だけでなく、歴史学、生物学、心理学を含めた多角的なアプローチが必要であること等を学んだ。

②企業との連携

・エルメス財団

2年生を対象にした講演会を行った。木をテーマにしてどのように探究すればよいのかを、エルメス財団の服部進氏（映画プロデューサー）、鎌田雄介氏（映画プロデューサー）、石垣征山氏（尺八パフォーマー）に説明していただいた。続いて、伊勢神宮という具体例を通じ、物事を多角的に捉え、発想を広げるという内容で説明していただいた。

・大林組

1年生及び3年生を対象とした「テクノロジーセミナー」を実施した。建設業の紹介をはじめ、ダム、タワークレーン、宇宙エレベーター、木造建築等の技術について講演をしていただいた。また、VRを利用して崖にある足場を経験したり、資材搬送システムでリモコンを用いてブロックを運ぶ体験をしたり、タブレットを利用して高層の木造建築物の内部

の 3D 体験をする等、様々な体験学習も実施した。

c. 外国語や文理両方の教科を融合した取組

- ・ 3 年生の社会科とデータ分析（数学・情報・理科）の授業で連携して、日本の経済活動を表すデータを収集し、それをグラフで表現、分析・プレゼンテーションを実施する授業を実践した。
- ・ 地球探究や生物基礎では、英語を用いた映像教材や問題を活用した。
- ・ STEAM 教育講座 第 1 回 ～バイオ医薬品～
東京工科大学応用生物学部の佐藤淳教授（生物創薬研究室）による「大学の研究室でバイオ医薬品を開発する」をテーマとした講義を実施した。講義内容は、世界の医薬品開発の現状、遺伝子組み換えによる医薬品開発のメリット・デメリット、遺伝子組み換えによる医薬品開発の方法、ラクトフェリンを活用した先生の研究についてであった。
- ・ STEAM 教育講座 第 2 回 ～映像表現～
東京工科大学デザイン学部の伊藤英高准教授による「アート ～ 映像表現：その歴史とデジタル技術の可能性」をテーマとした講座を実施した。講義の冒頭では、現在の環境の中の映像、NETFLIX、YouTube、TikTok、スマートフォンや SNS での映像発信、街中にあるデジタルサイネージ等の現状について説明いただいた。講義の後半では、現代では「動画」がコミュニケーションツールになっているという視点から、生徒が様々な映像技術について考察した。
- ・ STEAM 教育講座 第 3 回 ～Computer Science～
東京工科大学コンピュータサイエンス学部の生野壮一郎教授による「コンピュータ・スマートフォン・ゲーム機器、本当の実力」をテーマとした講義を実施した。現在のスマートフォンやゲーム機器がいかにか高性能であるかについての説明から、コンピュータの心臓部である CPU の仕組みや性能、高解像度の映像に不可欠な GPU について学んだ。
- ・ STEAM 教育講座 第 4 回 ～Robotics～
東京工科大学工学部機械工学科の上野祐樹教授による「人と関わり、支援するロボット」をテーマとした講義を実施した。介護ロボット、廃炉作業ロボット、人の移動を助けるロボット、人の運動機能を補助するロボット等の仕組み、構造、普及等について考えた。
- ・ 「社会 × データ分析」講演会
アマゾンウェブサービスジャパンと連携し「企業活動におけるデータ分析とは何か」という視点で講演を実施し、ビジネスにおけるデータ分析の活用を学んだ。

d. 海外研修および海外学校との連携

- ・ ハノイ・チュウヴァンアン高校とのオンライン交流
 - 第 1 回
チュウヴァンアン高校からは、英語コースの 40 名が自宅から参加した。交流のはじめはアイスブレイクとして、日本とベトナム双方とも、好きなお菓子、食べ物、飲み物を紹介した。
 - 第 2 回
日本・ベトナムの観光についてプレゼンテーションを実施した。観光はベトナムにとって大変重要な産業であることや、日本人はベトナムにとって第 3 位の入国者数であることの説明があった。
- ・ PASSO プロジェクト
PASSO プロジェクトは、本校とイタリア・レニャーノのデララッカハイスクールで昨年 10 月から始まった日本とイタリアでの交流を目指したプロジェクトである。10 月 24 日（日）に全体会を実施し、その後、6 週間にわたって、10 チームに分かれて SDGs について協働で学んできた。12 月には、各チームに一つの SDGs の目標を割り振り、約 1 ヶ月かけて発表資料をまとめて、双方の生徒が発表を行った。

- e. 文理融合教育
- ・学校設定科目の授業風景など記録映像を作成した。
 - ・「データ分析」では昨年の実践をもとに内容の改善を行った。本年は仮説検定のテキスト化と、データ分析のためのプログラミング教育を実施した。
- f. 目的達成に資する工夫
- ・地域との協働
 - Cross the Border 講演会 ～地域社会からの学び～
八王子市子ども家庭部青少年若者課の吉岡淳二氏から八王子市の現状と課題、2040年の八王子を考える意義、地域社会で探究学習する意義について講演いただいた。
 - 八王子市 高校生によるまちづくり提案発表会
八王子市による「高校生によるまちづくり提案発表会」を実施した。本校と都立翔陽高校、都立八王子北高校、都立八王子東高校の生徒が、八王子市長や八王子市教育委員会教育長に対して、探究学習を通じて作成した政策を提案した。
内容 ポスター発表「情報を最大限に発信する街に」
行政の情報発信がすべての世代に伝わる方法について提案
口頭発表（1）「八王子駅周辺の屋外喫煙所で受動喫煙を防ぐ」
八王子駅周辺の路上における非喫煙者の受動喫煙を防ぎ、喫煙者も気持ちよく喫煙できる環境をつくることを提案
口頭発表（2）「「繋がり」をもっと増やすために」
八王子をもっと住みやすい街にするために、地域社会の「繋がり」を増やす政策を提案
 - ・国際理解教育の推進
 - Cross the Border 講演会 ～グローバルな学び～ 9月22日（水）
東京外国語大学 オープンアカデミー 講師であるチェン・ティ・ミー氏による講演を実施した。「アイデンティティ」をテーマに、気付いていない自分や自分の多面性に気付く大切さを学ぶとともに、海外に出たら、一人一人がその国の代表であるから、自国の文化や歴史をきちんと学ぶ大切さを生徒は理解した。
 - ・協力関係バンクの活用
 - 協力機関バンク講演会
協力機関バンクに登録されているバークレイズ銀行東京支店会長の児玉哲哉氏による講演を実施した。「地球の裏側の出来事が、なぜ私たちに関係があるのか」をテーマに、世界で起こっている事象の意味、情報の取り方、情報の分析手法、異文化の中での行動のあり方について学んだ。
- g. 大学教育の先取り履修
新型コロナウイルス感染症の影響により実施しなかった。
- h. 高度な学習のための環境整備
- ・全国高校生フォーラム（文部科学省）
コットンをポットで栽培する研究成果と、多くの人にオーガニックコットンの価値を知ってもらうための普及活動を英語で提案した。
 - ・立命館宇治全国高校生 SR サミット FOCUS
「第4回全国高校生 SR (Social Responsibility) サミット “FOCUS” (Forum on Creating Unified Societies)」に、4・5年生の2チーム（計6名）が参加した。5年生のチーム「ones」は、貧困に悩む子どもたちに高校生が学習支援を行うプロジェクトを推進しており、4年生のチーム「Eco-friendly」は、学校の購買と連携し、国産小麦のパンや昆虫スナックを販売する活動を通して、持続可能な消費行動を広めるプロジェクトに取り組んでいる。チームリーダーは、事前にリーダー研修に参加し、ファシリテーターのスキルを学んだ。サミット当日は、それぞれのプロジェクトが抱える課題やその解決策

などについて、他校の高校生や留学生、国際的に活躍する社会人の方々と話し合い、互いのプロジェクトをブラッシュアップした。“AFTER FOCUS”では、活動の進展や新たな課題等について報告しあった。

- ・ 檜原村 フジの森プロジェクト
都立私立5校と協働で FSC の認証を取得した森で素材となる木の枝などを採取し、それを使って「木の鉛筆」や「リース」などを作る試みを行った。NPO 法人フジの森の方の指導を受けながら作品作りに取り組み、その作品を四季の里での販売を計画した。
- ・ 高尾ビジターセンター
校内のオーガニックコットンチームがビジターセンターとの共同企画としてワークショップを実施した。本校で育てた綿花を材料に、バッジ作りを実施した。
- ・ 科学オリンピック（物理、化学、生物、地学、情報）
- ・ Tokyo サイエンスフェア
- ・ 都立大学 探究学習合同発表会
- ・ 科学の甲子園「東京都3位入賞」
- ・ 科学の甲子園ジュニアエキシビジョン大会
- ・ 日本植物学会 「高校生研究ポスター発表」
- ・ 東京薬科大学 TAMA サイエンスフェスティバル
- ・ 都立科学技術高校 理系女子のための研究発表交流会
- ・ 静岡県立三島北高校 研究発表会
- ・ 八王子市 高校生によるまちづくり提案発表会

i. 留学生との協働

6（2）実績の説明【実施体制の整備】fに記載した「東京体験スクール」にて留学生を受入予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

j. 学校独自の取組

探究テキストの使用と改訂

本校の探究活動をまとめてテキスト化した。令和3年度から探究活動において使用し、タブレットを活用した授業展開等の環境変化を踏まえてテキストを改訂した。

探究テキスト「フィールドワーク活動」

- ・ 地域調査 1年
- ・ モノ語り 2年
- ・ 科学的検証活動 3年
- ・ ライフワークプロジェクト 4・5年

7-2 研究開発の実績（東京都立白鷗高等学校・附属中学校）

（1）実施日程

0 業務項目	実施期間（令和3（2021）年4月1日～令和4（2022）年3月31日）											
a. テーマ型学習	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①中学1年生上野・浅草プロジェクト		○	○	○	○	○	○	○	○			
②高校2年生個別探究論文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
b. 国内外の大学及び企業等との協働	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①国内外の大学との連携		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②グローバル企業・NPO等との連携			○	○		○			○			

c. 外国語や文理両方の教科を融合した取組	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①CLIL 学習									○			
②第2外国語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
d. 海外研修および海外の学校との連携	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①フランス短期留学プログラム			○	○	○							
②オーストラリア短期留学プログラム		○	○									
e. 文理融合教育	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①HAPiE	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
f. 目的達成に資する工夫	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①日本文化概論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
h. 高度な学習のための環境整備	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①神田外語大学との連携							○	○	○			
②高校生 SR サミット FOCUS 2021		○	○	○	○							
③全国高校生フォーラム						○	○	○	○			
i. 留学生との協働	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①リセ・ジャン・ドウ・ラ・フォンテーヌ校との協働			○	○	○							
j. 学校独自の取組	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①Diversity café			○	○	○							

(2) 実績の説明

a. テーマ型学習

①中学1年生上野・浅草プロジェクト

昨年度に引き続き、1学年生徒を対象とした「上野・浅草プロジェクト」を総合的な学習の時間に実施した。本校は上野・浅草地域に位置しており、多くの寺社仏閣や旧跡に囲まれている。地域の文化資源に目を向け興味を深め、探究活動に必要なスキルの基礎を体験的に身につけることが本プロジェクトの目的である。

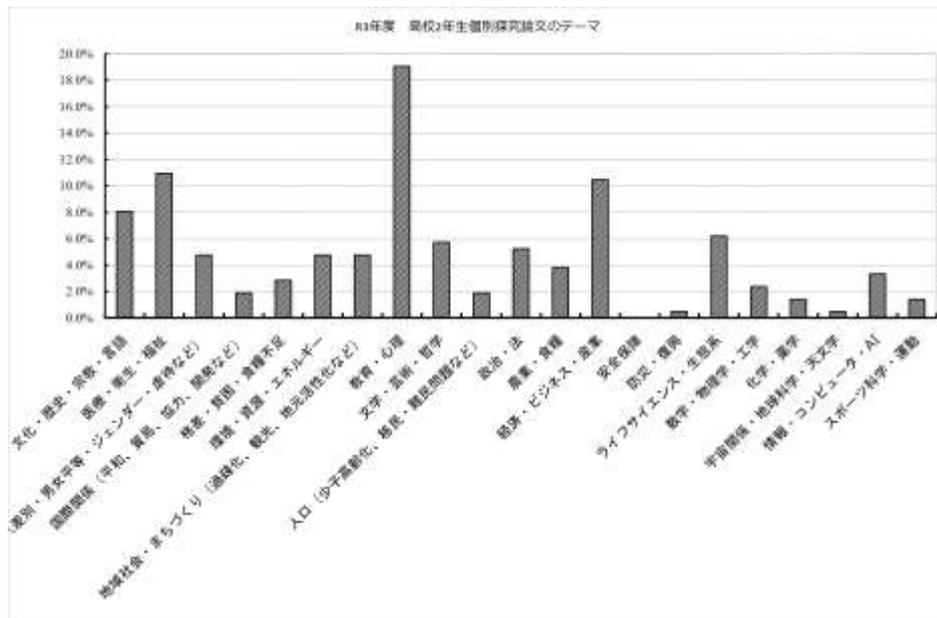
台東区観光ボランティアとのフィールドワークを通じて地域への理解を深める予定であったが、コロナ禍のため中止となり、代替として本校教員が上野と浅草で撮影した動画を視聴した。その上でインターネットや書籍を参考にして、調べ学習を行い、その成果を9月に行われた白鷗祭（本校の文化祭）で発表した。

10月以降は、生徒が自分たちの視点で発見した上野・浅草の新たな魅力を発信するリーフレットを制作した。制作にあたり、本校と高大連携協定を締結している神田外語大学の教職員4名と学生9名に5週にわたり Zoom にて授業にご参加いただき、リーフレット

のターゲット設定とデザインについてアドバイスをいただいた。生徒はアドバイスを参考に、グラフィック・デザイン・プラットフォームのCanvaを使ってグループで制作に取り組んだ。リーフレット完成後、本プロジェクトのまとめとして、リーフレットのコンセプト等について発表するポスターセッションを12月に実施した。それに先立ち、株式会社CURIOSCHOOLによるプレゼンテーション研修を実施し、ポスター制作と効果的なプレゼンテーションに必要なスキルを学んだ。生徒たちはCanvaでA0サイズのポスターを制作し、研修での学びを活かして発表した。ポスターセッションには、本校教職員、2学年生徒、神田外語大学教職員が参加し、発表に対してフィードバックを行った。

②高校2年生個別探究論文

日本の伝統・文化理解を基盤に、ダイバーシティ（多様性）を尊重し「競争」と「協働」の両方ができるイノベティブなグローバル人材を育成するため、生徒一人一人の自己の持つ興味関心や主体的な学びを具現化したものとして、高校2年生で一人一人がテーマを設定し、1年間かけて探究活動の成果として探究論文を作成している。テーマの設定については、各教科の学びやこれからの進路と絡めながら各自の興味関心に基づき、独創性を含みながら社会に対して有用な提言や提案などを発信できるものとして設定し、1年間探究活動を行い、論文を作成した。下図に、令和3年度の高校2年生の個別探究におけるテーマの割合を示す。



b. 国内外の大学及び企業等との協働

①国内外の大学との連携

今年度は以下のような大学連携を実施した。

- ・東京都立大学グローバル教養講座 4年生6名参加 (5月、6月)
- ・筑波大学 GFEST 3年生1名参加 (2021年8月～2022年7月)
- ・国際基督教大学 Science café at ICU 2年生2名、3年生1名参加 (7月)
- ・大阪大学 高校生のためのSDGs@HANDAI 4年生1名参加 (9月)
- ・東京大学先端科学技術研究センター Tokyo Leading Academy 4年生4名参加 (5月、6月、7月、9月、11月)
- ・東京大学先端科学技術研究センター 高校生研究員プロジェクト 5年生1名、6年生1名参加 (2021年6月～11月)
- ・東京大学先端科学技術研究センター 先端人シリーズ スパコン「富岳」×創薬×新型コロナウイルス 4年生1名参加 (12月)

②グローバル企業・NPO 等との連携

- ・NHK SDGs 映像企画サマーキャンプ「映像は社会を動かせるか？」
1年生1名、2年生1名（8月）
- ・起業ラボ 4年生2名参加（7月、8月）
- ・日韓文化交流基金主催 対日理解促進交流プログラム（JENESYS2021）
4年生3名参加（10月、11月）

c. 外国語や文理両方の教科を融合した取組

①CLIL 学習

12月13日・15日の2日間にわたり、現代文、世界史、日本史、数学、化学基礎、生物、保健、技術家庭でCLIL授業の公開授業を行った。全都立学校に案内を送り異校種の学校も含め広く情報提供を行うことができた。

CLIL授業では4つの視点（Content・Communication・Cognition・Community）を授業に取り入れながら指導案を作成し、参観者の学校でも実践できるように情報提供を行った。授業の際には教員一人で行う授業もあったが、JETを活用しながら英語が苦手な教員でもITを行うことによりCLIL学習が行えるようにした。

②第二外国語

本校では国際色豊かな教育の一環として、外国語の運用力を高めるだけでなく、言語の多様性を知り、国際的な視野を持ちたくましく生きていく人材の育成を目指し、令和元年度から第二外国語（スペイン語・フランス語・ドイツ語・中国語）の授業を展開している。中学校では2・3学年の全生徒が一つの言語を選択し、週に2時間学んでいる。4技能を育むだけでなく、新たな言語の学びを通じて文化や価値観への理解を深めることを大切に、日本人講師とその言語を母語とするALTが授業を展開している。なお、中学1学年は第二外国語の授業を設置していないが、本校では1学年を2学年以降どの言語を選択するのかを考えさせる準備期間ととらえ、地理の授業でスペイン・フランス・ドイツ・中国について学ぶ等、教科を横断した指導を行っている。本年度、自由選択科目として高校にも第二外国語の授業を設置した。高校段階で本校に入学した生徒が第二外国語を一から学ぶことができる「初級クラス」と本校で中学2年生から第二外国語の学習を続けてきた生徒を対象とした「初中級クラス」を新設した。「初級クラス」は高校1・2年生67名（スペイン語9名、フランス語15名、ドイツ語12名、中国語31名）、「初中級クラス」は高校1年生37名（スペイン語8名、フランス語10名、ドイツ語5名、中国語14名）が週に2時間学んでいる。令和4年度は高校2年生を対象とした「中級クラス」、令和5年度は高校3年生を対象とした「上級クラス」を設置予定である。また今後は、生徒の外国への興味をさらに喚起し他者と協働する姿勢を育むために、外国人留学生と本校生徒の交流会等を実施していく。

d. 海外研修および海外学校との連携

①フランス短期留学プログラム

姉妹校であるフランスのパリにあるリセ・ジャン・ドゥ・ラ・フォンテーヌ校との交流を主とするフランス短期留学プログラムである。このプログラムは、日本の伝統文化を発信するアウトプット型留学プログラムである。

3月から4月の春に実施予定であったが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症が収束しないため、中止となった。フランス短期留学プログラムの代替プログラムとして、6月から8月に本校を訪問したリセ・ジャン・ドゥ・ラ・フォンテーヌ校の中学生3名と本校附属中学生が、Diversity caféにおいて交流会を実施した。

②オーストラリア短期留学プログラム

オーストラリア短期留学は、オーストラリアのクイーンズランド州の高校及び大学を訪問しSTEM教育を実際に体験する本校独自のインプット型留学プログラムである。7月から

8月に実施予定であったが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症が収束しないため、中止となった。オーストラリア短期留学プログラムの代替プログラムとして、オーストラリアオリンピック委員会が主催する「Australian Olympic Connect ともだち2021」に参加し、交流校である Bundaberg Northstate High School とオンライン交流を行った。

e. 文理融合教育

①HAPiE

中学2・3年生、および高校2・3年生に学校設定科目の Hakuo Academic Program in English (HAPiE)を週に1時間実施している。授業では様々なテーマについてパワーポイントを用いながら自分の考えを相手にわかりやすく英語で発表する等、英語での発信力の育成に主眼を置いている。特に高校3年生の HAPiE では、全生徒が高校2年生で日本語で執筆した「探究論文」をベースとして英語での論文執筆に取り組んでおり、大学のアカデミック・ライティングを先取りするような内容である。生徒たちは英語論文執筆のためにJETが作成した教材“Hakuo Academic Handbook”を活用して執筆に励んでいる。生徒は Introduction (導入)、Methods (方法)、Results (結果)、Discussion / Conclusion (考察 / 結論) の4つの部分で構成された論文を執筆するが、5年次の論文をただ単に英語に翻訳するのではなく、日本語と英語の論じ方の違いを意識し、論理の流れを英語での表現に合うよう修正したり、新たな内容を付け加えたりしながら、論文執筆に励んでいる。令和3年度は3名の論文を優秀論文に選出した。今後、本校のホームページで限定公開する予定である。

f. 目的達成に資する工夫

①日本文化概論

日本の伝統・文化を学ぶ時間として学校設定教科・科目「日本文化概論」を高校2年生の教育課程に設置し、茶道・華道・書道・囲碁・将棋・生活文化・日本音楽史の中から3種類を生徒全員が履修している。コロナ禍によるオンライン授業においても自宅に生花や袱紗等を持ち帰り、学びを止めないことをスローガンに創意工夫ある授業を展開した。

g. 大学教育の先取り履修

新型コロナウイルス感染症の影響により実施しなかった。

h. 高度な学習のための環境整備

①神田外語大学との連携

令和2年に高大連携協定を締結した神田外語大学の協力を得て探究活動を展開している。令和2年度に引き続き、令和3年度も1年次の上野浅草リーフレット制作に神田外語大学教職員と学生にご協力いただき、リーフレットのターゲット設定とデザインについてアドバイスをいただいた。また本年度は、神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部の石井雅章教授にリサーチクエストと仮説の立て方について講演いただいた。

②高校生SRサミット FOCUS 2021

立命館宇治高校が主催する高校生SRサミット FOCUS2021に高校1年生5名が参加した。本校が設定した今年度のテーマは、「Plustivity～地球は青かった～」で、プラスチックによる環境問題解決のために、高校生ができることは何かを調査し提案した。調査にあたっては、学校の自動販売機を設置している会社に協力していただき、各フロアの自動販売機の売り上げデータを調べたり、学校内のごみ捨ての現状について取材なども行った。

③全国高校生フォーラム

WWL採択校および世界の高校生が集まり各学校で取り組んだ探究課題を発信したり、日本全国、世界の高校生とともに、英語で議論した。全国高校生フォーラムは、WWL指定

校、SGH 指定校の生徒が集まり、日々の研究の成果を英語で発信するWWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業の全国大会に位置づけられている行事である。今回も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症蔓延のために、オンラインでの開催となった。

今年度、本校が発表したテーマは「Mutual Understanding through Interaction」である。世界の国々に対して「自分たちが持つ一般的なイメージや情報だけで支援や交流を考えることは本当に正しいことなのだろうか」という問題意識を出発点として取り組み、「Mutual Understanding through Interaction」というタイトルで発表した。参加生徒にゆかりのあるガーナに注目し、高校生がガーナの人々とどのように交流していくべきかの提言を行った。また、当日、10 テーマに分かれた分科会では、「社会的環境と生活」に参加し、自分たちの主張の要旨の発表と質疑応答をすべて英語で行うことができた。

i. 留学生との協働

①リセ・ジャン・ドゥ・ラ・フォンテーヌ校との協働

コロナ禍で留学が難しい中で本校の姉妹校である Lycée Jean de La Fontaine (フォンテーヌ校) の生徒 4 名 (中学生 3 名、高校生 1 名) が令和 3 年 6 月から 8 月にかけて来日し、本校の授業や部活動 (囲碁・将棋部、和太鼓部) に参加した。また留学生 4 名と本校の中学生の希望者の交流会を対面で開催し、日本とフランスの文化の違い等について議論を深めた。新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインの国際交流が続く中、貴重な対面での交流を実現できた。なお、令和 4 年の 3 月から 4 月にかけて、高校 1 年生と 2 年生の希望者がフォンテーヌ校を訪問し日本の伝統文化について発信し交流を深める予定であったが中止となった。

j. 学校独自の取組

①Diversity Café

Diversity Café は、知的好奇心を原動力に、普段の授業等で扱えないトピックに注目し、話題提供者やゲストを招いてワークショップやディスカッションを行う取組で、WWL の採択を受けた平成 31 年度より実施し、今年度で 3 年目となる。今年度開催した Diversity Café のトピックは、以下の通りである。

・第 11 回 Diversity Café

「ゆるく『大学』を捉え直す ～ミネルバ大学での学びを体験してみよう～」

・第 12 回 Diversity Café 「東京外国語大学の魅力を知ろう！」

・第 13 回 Diversity Café 「ラ・フォンテーヌ中学交流会」

第 11 回の Diversity Café は、昨年度から実施しているアメリカのミネルバ大学の学生によるミネルバ大学の授業体験ワークショップである。今年度から本校以外の東京都内の公立中高一貫教育校にも声をかけ他校の生徒、教職員も参加した。

第 12 回の Diversity Café は、高校 2 年生の担任が中心となって開催した取組である。進路選択の時期に、生徒とのやりとりの中で生徒の学びの意識が高まったタイミングで行った取組である。このように、Diversity Café の自由度は高く、生徒や職員を喚起しながら、様々な方と繋がりながら、新しい学びを模索している側面も持っている。

第 13 回の Diversity Café は、姉妹校であるリセ・ジャン・ドゥ・ラ・フォンテーヌ校の生徒の交流会である。

8-1 目標の進捗状況, 成果, 評価 (東京都立南多摩中等教育学校)

a. イノベーティブなグローバル人材の進捗状況

- 日本の先端企業の研究に触れることができ、社会のイノベーションの現状を理解することができた。生徒の探究への意欲、自らがイノベーションに関与しようとする意欲を育成し、自らの探究を発信するスキルを習得することができた。また、WWL 拠点校の生徒との交流により生徒の視野を広げる効果があった。

- 教科での学びから探究テーマを見出し、どのように研究していくかの道程を学ぶことができ、研究する楽しさを知ることによって探究する意欲をさらに高めることができた。
- 先端的な研究について学び、自己の研究力を高め、他者への発信力・表現力を高めることができた。
- 教員の探究活動に対する意識を高め、これまでの探究活動を見直し、改善できた。グランドデザインと育成すべき力について、再検討を行い、イノベティブなグローバル人材を育成していく意識を高めることができる新たな目標設定ができた。
- 今後の教育活動の方向性について学び、本校のWWLコンソーシアム構築支援事業を活用して、様々な教育活動へと展開していく土壌ができた。教員が現在果たすべき役割、本校の目標についての考え方を教員間で共有でき、教員の支援・活動と生徒の成長との相乗効果を実感できた。
- 世界に踏み出す意欲や態度を育成することができた。イタリアの高校との協働的な取組は、生徒の意識が海外に広がるとともに、SDGsについて、世界の一員として世界中で協働的取組を行っていくというマインドセットができた。
- 文理分断から脱却し、多様な学びをすべての生徒に提供する教育課程を編成することができた。Society5.0に生きる生徒たちに必要とされるスキルを身に付けさせる体制を整え、自分自身が先の見えない社会を動かしていくリーダーとしての役割を担うという意識をもたせることができた。

生徒の視点

- WWL等の事業に参加する比率が高くなり、社会に参画し、人と関わりあうことに強みを持つことができるようになった結果、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力が向上している。また、課題を見出し、解決をはかる力も育成できている。
- 英語での発信意欲の高まり、コミュニケーション能力向上への意識が高まっている。
(学力・探究力)
- 他者と協働して社会をよりよくしようとする意欲が高まっている。(協働する力・突破力)
- 創造力・アントレプレナーシップの向上、目標実現に向けての行動力の向上が見られる。
(協働する力・探究力・突破力)
- 社会的問題解決への意欲向上、グローバル問題への視野の広がりが見られる。
(学力・探究力)
- 問題解決能力の向上が見られる。(創造力・表現力の育成)
- 映像作成を通じた企画立案能力・創造力の育成が図れた。外国人との交流を通じた視野の広がりが見られる。(協働する力・探究力・突破力)
- 英語による教科内容の指導により、授業への参加意欲、授業内容理解への意欲の向上、英語から日本語への授業内容再構成による思考力の高まり、英語活用能力の向上が図れた。
- 教科学習と社会的問題との関連性理解力向上、社会的問題への関心の向上、問題を解決しようとする意欲の向上が図れた。
- 海外のSDGs実践の現状と課題に対する理解の向上、異文化理解への関心・意欲の向上、グローバルな視野の習得ができた。(学力・探究力)
- 異文化理解、英語でのコミュニケーション力の向上が図れた。

教員の視点

- 先進校におけるイノベティブなグローバル人材を育成して教育について学ぶことができ、効果的な取組を取り入れることができた。WWLコンソーシアム構築支援事業を次へ繋げる取組を実践するとともに、さらに内外の高校と協働して課題解決を行うことによりイノベティブなグローバルリーダーを育成していく。

b. ALネットワークが果たした役割

校内の探究活動を基盤として、海外生徒や地域の高校生徒の交流により生徒の視野を広げるとともに、多面的な思考力を養い、日本語や英語での表現力を育成する効果があった。

c. 短期的・中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況等

WWL拠点校として、他の都立校でも実践できるような汎用性を模索してきた。コロナ禍であることから、十分に海外の企業・NPO法人、大学、高校等と連携できない中、地域の企業、自治体、高校等との協働した取組を図ることができた。

生徒が学年や学校を超えて、社会に正面から向かい合い、自分たちが主体となって課題解決を行うグループであるグローバル問題研究会、SDGs ミーティング、ones（生徒の任意団体）が立ち上がった。Onesは、「他者のために何かをしたい」をいう生徒の思いから、八王子市主催の高校生によるまちづくり提案発表会にて、地元小学校での放課後学習支援を提言し、実現させた。

本校は、探究テキスト(探究の手法・ワークシート)、八王子・高校探究コンソーシアム、都立高校の探究学習研究・八王子政策提言発表会等、WWLで実践してきたノウハウを協働という形で還元してきた。

東京都立大学の探究学習合同発表会に参加都立校の拡大を図っていくなど、今後も継続して、WWLの取組を推進していく。

課題は、WWL後の予算の確保が困難な状況や、教員の異動がある中、理念や事業を継承しながらいかに生徒を育てるかであり、令和4年は今後を見据えた取組を図っていく。

8-2 目標の進捗状況、成果、評価（東京都立白鷗高等学校・附属中学校）

a. イノベーティブなグローバル人材の進捗状況

- 中学1年生の上野・浅草プロジェクトの取組を通じて、ポスター等で自分の考えを発信するスキルを育み、次年度の探究スキルの学びに繋げることができた。
- 高校2年次の個別探究活動を通じて、高等教育に繋がる論文の作成の基礎的なスキルや探究のスキルを育むことができた。
- 高校2年生に完成させた探究論文をベースに、高校3年生のHAPiEの時間に英語で論文を書き上げた。論文執筆を通じて論理的思考力とアカデミック・ライティングに必要なスキルを育んだ。
- 令和3年度に実施したGlobal Test of English Communication (GTEC) のTotal（4技能）では、未受検者を除いて中学3年生はCEFR-J B2は5.0%、B1.1以上は17.7%、A2.1以上は100%であった。高校3年生はCEFR-J B2は8.9%、B1.1以上は63.9%、A2.1以上は100%であった。探究活動の成果を英語で高いレベルで発信するためにはB2以上が必要と考えている。今後は高校3年生により多くの生徒がB2を達成できるように、中学1年生からの計画的な指導体制を構築する。
- 海外大学とオンラインで交流することによりグローバルな視点での考え方や自分とは異なる視点を実感することができた。
- 学校設定教科・科目「日本文化概論」で日本の伝統・文化を学習することにより体験を通して日本の伝統文化の多様性について理解し、発信することができた。
- 地域と連携し、学年全員が地域の歴史や産業に関する理解を深め、課題を発見し、地域の発展に向けた提言を発見・発信することができた。
- 高校生SRサミットや全国高校生フォーラムにおける世界の高校生との協働を通じて、グローバルな視点や発信力を身につけることができた。

b. ALネットワークが果たした役割

- 国内大学および海外大学、企業、国際機関との高度な学びを提供する仕組みについては構築することができている。NGOとの連携の強化を今後進めていかなければならない。
- Diversity café等を通じて、本校の独自の学びのネットワークを構築しつつある。

c. 短期的・中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況等

- 短期的・中期的な目標のうち、以下については目標を達成できている。

・取組の目的、範囲、要件等の整備

- ・ALネットワークのステークホルダーの具体的な協力内容の整備
- ・「探究学習」カリキュラム開発
- ・各種フォーラム、報告会等の実施
- ・教員向けセミナー、研修機会等の提供
- ・本校独自の学びのネットワークの構築
- ・本校の独自の学びの指導書や教材開発などの学びの構築

長期的な目標でもある「今後はこの取り組みをどのようにして多様な学校に広く提供、普及していくか」については、昨年度から構築してきた都立中高一貫教育校のコンソーシアムを今年度も稼働しているが、今後はさらにそのネットワークを広げながらも、持続的に稼働していく方策を講ずる必要がある。

9 次年度以降の課題及び改善点

最終年度となる次年度は、コロナ禍でいかに学びのコンソーシアムを拡大していくかが課題である。

WWL事業での取組内容を他の学校へ還元し、質の高い学びの提供を通じたグローバル人材育成に取り組んでいきたい。

【担当者】

担当課	東京都教育庁指導部指導企画課	T E L	03-5320-7772
氏 名	木村恵美子	F A X	03-5388-1733
職 名	課長代理	E-mail	Emiko_1_Kimura@member.metro.tokyo.jp